ヤンサノエ

会報　2013　No.19

発行　江差追分会

2013.7.1

北海道桧山郡江差町中歌町193-3
TEL 0139-52-5555
FAX 0139-52-5544
ホームページアドレス　http://www.hokkaido-esashi.jp/

今年３月、北海道の伝統芸能をテーマにした岡山“倉敷音楽祭”に江差追分が招待され、二日間 10 会場で江差追分と北海道民謡を披露
立ち見やロビーの階段にも人ひとヒト　大盛況でした（舞台は左から、山田正明、寺島絵美、寺島絵里佳、小野美香）

追分文化の未来
伝統を守り、次世代に引継ぐ追分の創造

江差追分会副会長　馬川　政紀

昨年９月、「感謝と創造」をテーマに掲げた第50回記念江差追分全国大会と関連イベントは、全国の会員や町民、各種団体の積極的な協力により盛大かつ成功の内に終ることができました。この大会やイベント等の成功により、これまでご尽力頂きました追分関係者の皆様に、ささやかではありますが感謝の気持ちを表すことができたのではないかと思っています。

北前船の船頭衆達によって江差に運ばれ、育った江差追分は、江差の風土・江差人の気質と生活が凝縮された唄です。全国各地から追分を習得するために江差を訪ねてくれる愛好者はこれらを真剣に理解し、身につける努力をすることによって、追分の神髄にたどり着こうとしています。

また、これまで江差追分を守り育ててくれた先達や先人、次世代を担う少年たちの期待を裏切らないためにも、歴史と伝統を守りながら誰にでも愛され、親しまれる江差追分の「創造」を確立しなければなりません。

幸い記念大会の前後に開催された「シンポジウム」や「感謝の旅」、今年の総会等で提案された多くの意見や課題を尊重すると共に、伝統を守り育ててくれた熟年の方々、次世代を担う少年たちの声も聴きながら、理事会や師匠会等とも協議し、一定の未来像を創出する努力をして行く覚悟であります。

第51回全国大会は、追分の未来像を創出する第一歩として、少年大会を一日開催から二日間に変更し、審査基準を一部改正して49回までの大会とほぼ同様に開催されます。

選抜大会を勝ち抜いた選手の皆さんは全国大会に向けて特訓中と思いますが、出場される選手はもとより、師匠、支部長、会員の皆さんも、是非全国大会にお出で頂き、大きな声援を贈られては如何でしょうか。

選手のみなさんの熱唱を期待しています。

平成25年度江差追分会総会

少年大会を二日間に分けるなど 全国大会スケジュールを一部変更

本年度の江差追分会総会が4月28日に町内のホテルで開催され、総会前に開催された理事会で提案議案が協議されたのち、新年度事業計画並びに予算が決定された。

役員の任期満了により副会長、理事、監事の改選が行われ、今後二年間の体制が確定しました。（松村隆編集委員）

前年度は追分全国大会第50回記念大会として、多彩な事業を展開したが、本年度は例年に基づく予算内容が決められた。

予算総額は2530万8千円と前年度より27万7千円の減額となった。

事業項目ごとに多少減額となっているが、記念事業分の減額でほぼ例年の計画に基づく内容が盛り込まれた。

指導育成事業の地区別の格付審査経費に20万1千円が増額された。収入では町財政の好転により補助金50万円復活増額が見込まれた。

本年度事業計画で変更された事項

本年度事業もほぼ例年通りで行われるが、事業運営の関係から一部変更されている。

◆全国大会スケジュール

◆予選会二日目

▽これまで、少年大会は三日目の決選会に全員出場していたが、本年度は地元出場者の競演を二日目に実施する。

◆決選会（三日目）

少年大会の地元以外の出場者と、熟年決選会25名、一般決選会50名の競演とする。（開会式、表彰式を含めた想定時間8時30分～20時）

◆出場者の年齢区分

会員の高齢化に対応して熟年出場年齢を70歳とすべく五か年で順次引き上げてきたが、本年度、予定していた年齢に達した。

▽熟年の部出場者―平成25年1月1日で満70歳以上の会員

▽一般の部出場者―右の基準で満69歳以下の会員

◆追分物故者追悼法要、佐之市法要

物故者法要―9月19日午後3時

佐之市法要―物故者法要に引き続き

※　前年より30分繰り下げ

◆地区選抜大会審査の変更点

地区運営協議会主管による大会審査基準の一部が変更された。

①昨年まで審査員6人以上の場合に得点の上下をカットしたが、より公平性を期するため5人の場合でも上下カットする。

②審査基準の明確化（伴奏、ソイ掛け）として、現在は「尺八伴奏の極度の乱れは減点対象とする」「ソイ掛けのかけ間違い、極度の音程のずれは減点対象とする」とされているが、いずれも明確な判断基準がなく審査員の判断に委ねられていた。この場合公平性を欠くため、審査員は唄を中心に審査し「極度の乱れ、ずれ」は審査委員長の判断により、減点1点を指示する。伴奏が原因による大幅な減点を防ぐためで、唄い手を保護するためのもの。（全国大会にも適用）

顕彰者の決定

江差追分の普及伝承に貢献された三氏について、賞罰委員会の答申により功労表彰が決定さました。

播磨孝雄氏
（函館孝翔会支部長・師匠）

遠藤正雄氏
（天北支部長・準師匠）

佐藤信一氏
（函館支部長代行・講師）

指導者資格認定

名誉師匠

吉田翠山　札幌山鼻支部
福田継男　八雲支部

上席師匠

山本ナツ子　砂川支部

師匠

三好ゆかり　函館もりいち会支部
川井清　金沢支部

準師匠

山田弘　旭川東支部
菅野繁子　旭川南支部
神谷昌利　名古屋大須支部

講師

斉藤勝弘　函館もりいち会支部
釜親鉄夫　珠洲支部

準講師

木平實　十勝大雪支部
岸波利子　函館西支部
水嶋潤一　和春会支部
山田都子雄　深川支部
辻義彦　深川支部
江郷貞吉　札幌白石支部
菊池正則　東京銀杏会支部
萱本博久　岡山支部
矢下勇鷹　東京葛飾支部

新支部・脱会支部

追分会には今年度、新しく2つの支部が誕生しました。一方、残念ながら1支部が脱会しました。これにより、平成25年4月28日現在の支部数は160支部、会員数は3615名となりました。

支部設置承認

長崎波声会支部（関西地区）
長崎県長崎市筑後町
支部長名／平川波声
会員数／20名

香川追分会支部（関西地区）
香川県高松市牟礼町大町
支部長名／萱本博久
会員数／30名

役員が改選されました
2年間よろしくお願いします

今総会における役員改選において、吉田翠山（地区部門）・大原勇一郎（運営部門）前理事が退任され、桑名靖生氏（関東地区）下川部隆氏（札樽地区）が新しく理事に就任しました。ほかの役職については再任となっております。新役員は次の通り。

◆　◆　◆

顧問／三隅治雄・青坂満
相談役／多田義和
会長／濱谷一治（町長）
副会長／近江八声（師匠会副会長）
　　馬川政紀
常務理事／大杉則明（事務局長）

地区部門理事
高清水勲・山内藤一・阿部眞光・久保田勝美（芸能部門より）・吉田保・長谷川富夫・伊藤良三・渡辺傳次郎・王藤正蔵・杉山貞夫

運営部門理事
坂野正義・菊地勲・浅沼春義・佐藤隆広・熊野正宏・桑名靖生（新任）

芸能部門理事
房田勝芳・小笠原次郎・浅沼和子・渋田義幸・柳田実・杉山由夫・坪田昭信・石田盛一・伊藤満・下川部隆（新任）・山本ナツ子・千葉栄人

学芸部門理事
館和夫・松村隆・岩渕啓介・高田裕

監査役
亀田栄・干場芳巳・棚橋健蔵

脱会承認

湘南相模支部（関東地区）
支部長名／江成謙一

会員の減少と高齢化により単独支部の維持が困難で、なお、会員のうち希望者は神奈川中央支部に移籍しました。

普及宣伝活動

普及宣伝活動の主なものとしては、表紙に掲載した「第27回倉敷音楽祭」への出演のほか、高等学校音楽教育研究会の追分実技指導、全国各地域におけるイベント出演、テレビ番組第50回記念特集「北スペシャル」の全国放映などが報告された。

これからの江差追分 新たな「創造の時代」に向かって

江差追分会学芸部門理事　館　和夫

この子達が「100 回記念大会」を開催できる環境作りが、今、江差追分に携わっている私達の大事な責務です

江差追分全国大会が50回の節目を迎えた。

平成24年、江差町ではこの年を「江差追分年」と名付けて、「感謝と創造」を合言葉に年初から総力を挙げてさまざまな記念行事に取り組んだ。日頃は静かな江差の町が、久しぶりに世間の注目を集め、地方文化の発信地としての健在ぶりを、あらためて示した一年であったと言えよう。

その総括ともいうべき「第50回江差追分全国大会報告書」が、このほど追分会事務局の手によってまとめられた。表紙に第50回大会のポスターを配したＡ４判、約２４０ページの記録集で、期間中に行われた記念行事に関係する記事や写真など、各種の資料をもれなく収録している。

関係者はもとより、内外の愛好者達の絶大な協力を得て成功裡に終った諸行事であるが、その後、早くも半年余り、今や先人や世人への「感謝」に留まらず「創造性」が要求される時代に入った。

この唄を、今後どのように発展させて行くべきか、我々愛好者にとっては、むしろ「これからが本番」とも言うべき困難な時期に差しかかっていると言えよう。

昨春と秋に開催された「みんなで考えよう江差追分の未来を！」と題するシンポジウムでは、講師やパネラーから多くの示唆に富んだ意見が出された。そのごく一部を引用して左に掲げる。（順不同・敬称略）

江差追分セミナーの「追分酒場」のひとコマ。次年度の再会を約束するなど、昔も今も、追分は人と人との絆を生んでいる

◆シンポジウムから一言◆

【第一回シンポジウム】（４月21日）

○「父さん母さんと言える声があれば唄えるというのは基本なんです。…いい声とか悪い声とかいうのは関係ないと思うんですよ」（近江八声）

○「標準追分で声の張った唄を唄えない人も、炉端追分なら、台所追分なら、散歩追分なら、…風呂場でもいいですね」（館和夫）

○「音楽教育の視点から見た時に、江差追分は非常に伝えて行くべき文化的な価値が高い音楽なんですね」（寺田貴雄）

○「全国大会の決選会で唄えない方、応援に来た方をもてなす大会をやりたいということで笑い嘆き節（大会）に繋がったわけですね」（飯田隆一）

○「全国大会のチャンピオンから順位がずっと付きますけども、それとは全く別の賞なんかあったりしたらどうなのと、思いついたりもします」（小田島玲）

「江差追分を続けてこれた魅力と言うのは、やっぱり人との絆、繋がり、特にセミナーなんかは…」（渡辺傳次郎）

【第二回シンポジウム】（11月11日）

○「民謡が益々盛んになるには、…少年少女大会が盛大になることですね。二番目にやはり、電波に乗らなければだめです」（飯田晴彦）

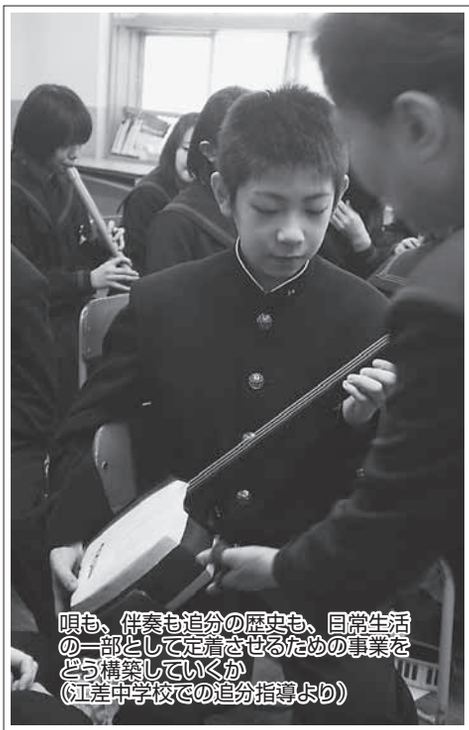
○「冗談言いながら、笑わせながら、楽しみながら、いいぞと褒めながらやった時は、追分はまた別な形で発展するかなと思うんです」（佐々木基晴）

○「下手な人ほど江差追分を好きなんですよ。ホントの話。…庶民の心をとらえる神秘性が江差追分にはあるんですよ」（峯村孝）

○「地域づくりを考える上で、よく、よそ者、若者、ばか者の視点が大事だと…」（井上健二）

○「安来節演芸館におきまして演芸を見た後、体験をするとか、…教育委員会が地域の伝統芸能に接する機会をということで…全市の幼小中取り組んでいるというのも一つ、子供さんに安来節に接する機会ということで行っております」（成相二郎）

○「民謡が今全国でも片隅に置かれてしまっている状態を少しでも民謡っていいもんだなアと思ってもらえるように、…江差追分を一人でも多くの方々に知っていただきたいという活動もしていきたいと思います」（木村香澄）


唄も、伴奏も追分の歴史も、日常生活の一部として定着させるための事業をどう構築していくか
（江差中学校での追分指導より）

◆新たな展望を開くため◆

「追分新時代」に向けての助走路に立っている今日、以上のような関係者の貴重なヒントとも言うべき意見を踏まえながら、江差追分の未来にどのような戦略を描き、指導理念を構築して、目的に向かって協力しながら前進して行くか、今は、追分界の団結力が問われている時期と考えてよいであろう。

ともかくも競演会中心の民謡界の運営が、必然的に民謡の芸謡化現象を生み、必ずしも素質に恵まれた人々ばかりでは無い愛好者層の先細りを招いているきらいはないか、唄が本来持っている地方性、および自由闊達な表現性と現在の庶民の生活感情とが現在の指導体制の中で十分に活かされ、機能しているかどうか。また、愛好者がおのれの生活実感のはけ口として、慰めとして真に求める唄の形と、指導者側の唄に対する意識や姿勢の間に、どこかズレが生じてはいないかなど、今一度立ち止まって考えてみることが必要のように思われる。

以上のような観点からすれば、指導の方法も常に定型的な追分を画一的な方法で教えるのではなく、ある程度基本を覚えた唄い手に対しては個々の個性に即した表現を磨くという視点に立って工夫し、見直すといった自由度があってもよいのではないかとも考えられる。

◆期待される新工夫◆

とにかく新時代の追分を目指して、現状を漸進的に改革していくためには、何らかの手立てを考えなければならない。もちろん、今後の追分のあるべき姿については、会の運営上、および表現技術上必要な関係者の意見の取りまとめや、優先すべき方向、当面する事業の選択、予算の手当て、さらには将来を見据えての専門的な人材の養成や収集資料の保全と活用など、問題が山積していることは自明であり、拙速は避けなければならないが、各部門の関係者をはじめ各界の衆知を集めた上で、年ごとに曲節や歌詞、伴奏、踊り、付帯行事等の内、何か一つでも「今年はこの点に新しい工夫があった」と感じられるような試みがなされてもよいのではないかと思う。

少なくとも今後の追分について「百年の計」を目指すのであれば、日頃から何らかの改革に向けて各部門（時には部門を超えて）担当者同士の忌憚のない意見の交換や、日頃から改善策の細部についての細やかな意思疎通が必要であろう。

何をどこから、どう始めるか、江差追分界の前途にはいかなる歴史が待っているのか、ともかくも江差追分節を愛好するという一点で結集している我々江差追分会の会員は、この際、戦後半世紀余りの経験の上に立って時代を反映した新たな指導理念を一日も早く確立し、現代の庶民の日常の生活感情に寄り添って慰めとなり、力ともなるような追分を目指して前進して行きたいものである。

駆けつけた聴衆が審査員だった「文化センター体育館」の時代
追分ファンを呼び戻すためにはどうあるべきかは日常的な議論が必要

14年間半の江差追分を振り返って

江差追分会　前事務局長　小田島　訓

皆さんに長くお世話になった前小田島事務局長が任から退くにあたり「ヤンサノエ」に寄稿をお願いしました。

ご存知のとおり、会の事務局は江差町役場職員が担うことになっており、小田島にとって役所生活40年間でその３分の１以上を追分会に携わってきたことになります。

格付３級を取得し尺八もこなす江差町役場随一の追分人が１３００字に自分の足跡を記しています。

一　はじめに

平成25年の４月１日の人事異動で通算14年半という長きにわたる業務を離れることになりました。

追分関係者の皆様には大変お世話になりました。「合縁奇縁」によりたくさんの「個性ある追分人」の方々と巡り合うことができましたこと心よりお礼申し上げます。

二　江差追分との出会い

私はご縁がありまして昭和48年４月に檜山管内の北部にあります今金町より江差町に入庁しました。

住まいは、親戚でもある青坂満師匠宅の２階にお世話になりまして、この時に初めて追分を耳にしました。唄ってみましたが、この時の印象は「俺には到底唄えない唄」と思いました。

三　江差追分会勤務のはじまり

私はこの４月に異動となるまで、通算で３度、江差追分会事務局勤務となりました。最初は、昭和57年にオープンを控えた前年４月に江差追分会館の整備促進期成会の事務担当となったのがはじまりです。

任務は、追分町長と呼ばれた当時の本田義一町長の命令で「１年間で７千万円を集めろ！」ということでした。私は「１年間で集めるの？無理！」と思いましたが、当時「岸壁の王者」を自称する津村孝課長は「絶対大丈夫だ」と豪語。結果的には１年間で追分会支部の皆様方のお陰もあり、「約１億百万円」の協賛金を得ることができました。この任務を終えて、この事務局を去るものと勝手に考えておりましたが、当時の新木秀幸係長（現教育長）が「お前は代わらない」と断言。予言どおり私はそのまま観光係で江差追分会事務局の担当となったのでした。

私はこの頃、江差追分、姥神祭りがどうも好きにはなれず、２年位悩みながらも勤務。５年経過した頃には、追分が好きになっており、７年過ぎた頃には定年までこの係でも良いかなと思うようになっていました。

昭和 60 年、第 23 回大会において出場者の受付を行う小田島
まだ髪が黒々の 23 歳

四　事務局勤務での悩み

私は職の立場がそれぞれ代わりながら、３回の事務局勤務をいたしました。歴代の事務局長が悩んだことでもありましたが私も「追分界の人間関係」で悩みました。「右を立てれば左が立たず」という芸能界特有の現象であります。本当に「これがなければなあー・・」と何度思ったことか。事務局は公平でなければならず、それを保つために厭なことも主張させていただいた場面は数多くあり「あの野郎！」と思われた関係者もいらっしゃると思います。お許しを。

こういった狭間の中で過ごした時代が懐かしく思います。

五　今後も二刀流を修養

私事で恐縮ですが、私剣道を修養しており、生涯の友としております。この剣道と追分はどこか似ているところがありまして、その類似点はどちらも最終的には「自己陶冶」にあると思っております。人との勝ち負けを競わず自分の中での成長に価値を見出し、継続することに意義があります。

剣道はただひたすら基本と応用技を繰り返し、追分も８つの節を繰り返す。もちろん長くやれば必ず上達するというものではない。経験を積み重ねることで、上達していくという可能性はあると思っております。

私はこれからも、剣道と江差追分の二刀流の道を歩んで参りたいと考えております。

歌唱力の向上を目指し基本をおさらい
帯広で48名が参加し研修会を開催

参加者の傍に立ち全身を使って熱心に指導する近江上席師匠

江差追分会道東地区運営協議会は5月12日（日）帯広市東コミュニティセンターで、近江八声師匠会会長を講師に招き道東地区江差追分研修会を開催しました。

研修会には道東7支部から支部長と会員合わせて48人が参加し、正調江差追分に欠かせない8つの基本の節をおさらい。

尺八、ソイ掛けの音に乗せ、初級と中級者は1節、上級者は5節までのポイントレッスンを行ったほか、尺八やソイ掛けについても研修。

6月の道東地区選抜大会、そして9月の全国大会や格付審査を控え、近江上席師匠の熱血指導を受けた参加者は基本の節を真剣に繰り返し練習。帯広市内から参加した女性会員（63歳）は「近江上席師匠に幾つかの欠点を指摘された。9月の江差町での格付審査会までにしっかり直し一段階上の級に挑戦してみたい」と意気込んでいました。

香澄 KAZUMI コンサート in 奈良

第29代江差追分全国大会優勝者、木村香澄が、関西で初のソロコンサートを行います。

２時間の舞台は、１部が正調民謡、２部がピアノ伴奏でアレンジした民謡を予定。

また、奈良でご活躍いただいている当会の大和菊華会、仲村菊江支部長がゲスト出演し、伴奏には愛知三河支部の渡辺傳次郎ファミリーと、江差追分会関西地区が周りを固めています。

お近くの会員の皆様、是非お友達を誘って、会場へ足をお運び下さい。

と　き　10月20日（日）18時開演
会　場　奈良県大和高田市文化会館
さざんかホール
前売券　3,500円（全自由席）

お問合せ　㈱ヴーム
電話 0139-67-2854

江差追分「人生の唄」
ＤＶＤ絶賛発売中！！

１枚　1,500円

時の流れとともに移り変わってきた江差追分の軌跡を知るための１枚として、是非ご購入ください。
お問合せは事務局まで。

列車に揺られて江差入りはいかがですか？

来春、江差木古内間鉄路廃止

ご存知の方も多いと思いますが、ＪＲ江差線「木古内－江差間」（42キロ）が来年５月11日の運行を最後に、廃止されます。

古い江差追分ファンの中には、木古内から長い時間揺られて江差の駅に降り立った懐かしい思い出を持つ方も少なくないはずです。

鉄路廃止の背景は、言うまでもなく年間数億円の赤字を生む路線の整理であり、会社側から説明を受けた際、ほとんどの住民は「とうとうこの日が・・・。」という思いだったのかも知れません。また、個人差があっても無くなる事に対する寂しさはみな同じなのではないでしょうか。

さて、江差追分会が今年度全会員を対象として予定する事業では、秋季と２月のセミナー、９月の全国大会があります。いかがでしょうかこれらの事業に参加する際、鉄路を利用してみては。

もちろんその場合、江差入りには通常よりも多くの時間を要することになりますが、もう２度と見ることが出来ない車窓からの景色は、それだけの価値があるかも知れません。是非ご検討を。

◆ 事務局体制が変わりました ◆

今年４月１日に行われた江差町役場の人事異動で、事務局長と次長が変わりました。

４名体制で２名が異動となりましたので、会員の皆様には何かとご不便やご迷惑をお掛けするかも知れませんが、これまでの体制同様よろしくお願いいたします。

◎新事務局体制

事務局長　大杉則明（新）
事務局次長　尾山　徹（新）
書　記　国仙敏孝（留任）
　　竹内裕子（留任）

◎お世話になりました！

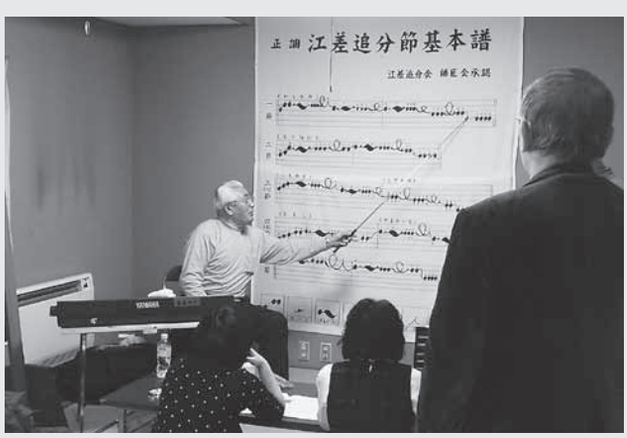
前事務局長　小田島　訓
※新しい役職は、町教育委員会社会教育課長です。
社会教育面から江差追分に携わることになりました。

前事務局次長　中川　智
※課長職に昇格し、近隣５町で構成している「桧山南部衛生処理組合」へ派遣されました。

「ヤンサノエ」編集部では、皆さんの地区や支部での活動に関する情報をお待ちいたしております。
まずは電話で、お知らせ下さい。

【編集】　館　和夫・松村　隆
　　岩淵啓介・高田　裕
【企画】　江差追分会事務局

秋季江差追分セミナー 受講生募集開始！



今秋のセミナーは次の日程で開催します。
いずれも３日間のコースで受講料は１万５千円です。
皆さんの参加をお待ちしております。

10月31日～11月２日
11月７日～11月９日
11月14日～11月16日

お問合せ・お申込は江差追分会事務局まで
電話　0139－52－5555